



県立美術館

明治から昭和20年代前半までの県内の師範学校、旧制中学校に勤めた美術(図画)教師の数は計約200人ほど。彼らの中には自ら絵を描き展覧会に出品するなど、画家として名をはせた人も少なくない。県師範学校の図画教師であった山口亮一(1880~1967)もその一人。

佐賀市に生まれ、東京美術学校(現東京芸術大学)西洋画科を首席で卒業。1921(大正10)年から師範学校で教鞭(きょうべん)を取りながら帝展に出品。さらに県

屋外写生にいそしむ女子学生

「図画の時間」

内初の総合美術展「佐賀美術協会展」の世話役を長年つとめ、郷土美術文化の発展に尽くした。

山口は温厚な人柄で、深い文化的教養と独特のユーモアのセンスをそなえていた。教壇でもそれはしばしば披露され、生徒の人気を集めたという。

本作は題名が示すように、当時の師範学校女子部の図画の授業風景であろう。画板をかかえた女子学生たちが屋外写生にいそしむ姿が描かれている。かつての学校生活を伝える資料としても貴重だろう。

(県立美術館
学芸員 野中耕介)

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半~午後6時。休館日は月曜。



山口亮一作/1924(大正13)年/油彩・カンバス/33.3センチ×45.2センチ/県立美術館蔵/5月6日まで開催している「玉手箱1 佐賀県・近代の美術教師たち」(県立美術館)で公開中